

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	買掛金	50,000	当座預金	74,000
	前払金	24,000		
2	旅費交通費	2,000	小口現金	10,000
	消耗品費	1,000		
	通信費	3,000		
	雑費	4,000		
	小口現金	10,000		
別解	旅費交通費	2,000	当座預金	10,000
	消耗品費	1,000		
	通信費	3,000		
	雑費	4,000		
3	現金	5,000	従業員立替金	5,000
4	現金	30,000	有価証券	400,000
	未収入金	70,000		
	有価証券売却損	300,000		
5	水道光熱費	18,000	当座預金	30,000
	資本金	12,000		

・解説

1. 前払金に関する問題です。

本問は、勘定科目の選択肢の中に「仮払金」勘定がないので、特に迷うことなく「前払金」勘定を使って処理できたと思いますが、両者の違いについてはきちんと押さえておいてください。

前払金というのは、仕入先に対する前払いなど、**なんのためのお金かはっきりしている状態で支払った場合に計上する勘定**で、一方、仮払金というのは、**なんのためのお金か決まっていないが、とりあえず先に支払った場合に計上する勘定**です。

本問は、問題文に「**次回の商品仕入のための手付金 円 24,000 として**」とあるので、前払金勘定を使って処理します。

前払金がメインの問題は、第120回の問4や第127回の問2でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. 小口現金に関する問題です。

小口現金の仕訳は、【支払いに関する仕訳】と【補給に関する仕訳】に分けて考えましょう。

【支払いに関する仕訳】

小口現金から支払った経費を計上します。仕訳自体は簡単なので特に問題ないと思います。

★解答仕訳①

(借) 旅費交通費 2,000 / (貸) 小口現金 10,000
(借) 消耗品費 1,000
(借) 通信費 3,000
(借) 雑費 4,000

【補給に関する仕訳】

問題文に「支払額と同額の小切手を振り出した」とあるので、支払額 10,000 円と同額の小切手を振り出して小口現金を補給します。

★解答仕訳②

(借) 小口現金 10,000 / (貸) 当座預金 10,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

なお、本問は問題文に列挙されている勘定科目に「小口現金」があるので、**借方と貸方の小口現金勘定を相殺してもしなくてもどちらでも正解**です。

小口現金に関する問題は、第 103 回の問 2や第 105 回の問 3、第 112 回の問 4、第 113 回の問 5、第 121 回の問 4でも出題されているので、あわせてご確認ください。いずれもほとんど同じ形式で出題されています。

3. 立替金に関する問題です。

立て替え時に計上した従業員立替金勘定のうち、入金があった分について現金勘定に振り替えるだけの簡単な問題ですが、本問のように「既に切られた仕訳を前提とする問題」は、実際に仕訳を書き出して考えてみると分かりやすいです。

☆参考：立て替え時の仕訳（既に切られた仕訳）

(借) 従業員立替金 10,000 / (貸) 現金など 10,000

★解答の仕訳

(借) 現金 5,000 / (貸) 従業員立替金 5,000

立替金がメインの問題は、第 104 回の問 4や第 113 回の問 2でも出題されているので、本問とセットで押さえておいてください。なお、取引の時系列的には「第 113 回の問 2→第 104 回の問 4・本問」という流れになります。

4. 有価証券の売却・未収入金に関する問題です。帳簿価額と売却価額との差額を売却損益で処理しましょう。

- ・帳簿価額 = 1,000 株 × @400 円 = 400,000 円
- ・売却価額 = 1,000 株 × @100 円 = 100,000 円
- ・貸借差額 = 400,000 円 - 100,000 円 = **300,000 円**（帳簿価額 > 売却価額 → 売却損）

なお、売却代金の一部の 70,000 円 (= 100,000 円 - 30,000 円) はまだ受け取っていないので、未収入金で処理します。

有価証券の売却に関する問題は、第 102 回の問 5や第 110 回の問 1、第 116 回の問 5、第 118 回の問 1、第 123 回の問 4、第 131 回の問 1、第 142 回の問 4、第 147 回の問 5でも出題されているので、あわせて確認しておいてください。

5. 資本の引き出しに関する問題です。

水道代 30,000 円は営業用（事業用）と店主用の 2 つに分けたうえで、前者を**水道光熱費**で費用処理し、後者を**資本の引き出し**として処理します。

なお、本問は問題で列挙されている勘定科目の中に資本金がある（引出金がない）ので、資本の引き出しに関する仕訳は**資本金で処理**します。

- ・ 18,000 円（=30,000 円-12,000 円）は営業用 → **水道光熱費**で費用処理
- ・ 12,000 円は店主用 → **資本金の減少**として処理

資本の引き出しに関する問題は、第 102 回の問 3や第 106 回の問 4、第 107 回の問 2、第 111 回の問 3、第 114 回の問 2、第 117 回の問 5、第 122 回の問 1、第 125 回の問 2、第 127 回の問 5、第 129 回の問 5、第 133 回の問 3、第 135 回の問 4、第 136 回の問 1、第 139 回の問 4、第 145 回の問 1、第 147 回の問 2でも出題されているので、あわせてご確認ください。